

テーマ別パスファインダー



フォト・ジャーナリズム



✧ パスファインダーとは？

Pathfinder（パスファインダー）とは、探検者／草分け／開拓者の意。レポート作成や論文作成で、何をすればいいのか、どこへ行けばいいのかわからない！そんな人のための助けになるように作成した、学問の「道しるべ」です。

作成日：2012年11月14日
大阪大学 外国学図書館 | 箕面キャンパス |
ラーニングコモンズ るくす | TAチーム

I. イントロダクション

＜ 「フォト・ジャーナリズム」 とは？

写真はありとあらゆるところで消費されています。看板、広告、雑誌、本の表紙、インターネットページ、個人の写真など。しかし、その中でも、「命をかけて誰かに何かを伝える」ことを目的に撮られた写真があります。それは、時に政治的、宗教的、思想的な意味合いを帯びながら、他者との「共有」ツールとしての機能を果たします。あなたは世界を、どれぐらい知っていますか。

関係分野：メディア・リテラシー論、ジャーナリズム論、写真論、報道写真

※蔵書の関係により、技術書や写真集の掲載は少なくなっています。そのかわり、新書等で簡単に読めるものを列挙しました。

II. 報道写真を見たことがない方へ

＜ Magnum Photos, inc (2007) 『Magnum Magnum : with 413 photographs in colour and duotone』 編集：Brigitte Lardinois 青幻舎

カルティエ＝ブレッソン、キャパ、シーモア、ロギヤーの伝説的写真家たちが創始した世界的写真家集団「マグナム・フォトズ」。世界から多くのジャーナリストが在籍しています。その写真の魅力を十分に語ってくれるのがこの一冊。説明書きもありますが、まずはペラペラめくってみること。【外 3F | 748/85】

＜ Magnum Photos, inc (1992) 『壁の向こう側 マグナムの撮った東欧・ソ連 1945-1990』 毎日新聞社

村上春樹も参考にした、ジョージ・オーウェル「NINETEEN EIGHTY-FOUR」の舞台となった旧ソヴィエト連邦。今の若い人には過去の国かもしれません。しかしそこには、多くの苦しみと悲しみがありました。近くて遠い過去、この写真集で追体験してみてください。【総：784 | MAG】

＜ タイム ライフ ブックス編集部 (1971) 『フォトジャーナリズム』 ライムライフインターナショナル

米フォトジャーナリズム専門誌「LIFE」、米初のニュース雑誌「TIME」が共同編集したフォト・ジャーナリズムの解説と撮り方へのアドバイス。そこらのハウトゥ本とは格が違います。【理工学西館 2F : 740/L】

＜ 映画『バンバン・クラブ —真実の戦場—』

カナダ・南アフリカの合作映画。90年台初頭、南アフリカ共和国で活躍した4人のジャーナリスト「バンバン・クラブ」の奇跡を追ったドキュメンタリー仕立ての作品。「ハゲタカと少女」の写真でピューリッツァー賞をとったケビン・カーターのその後の苦悩は必見。「隠された戦争」がここにある。

III. ジャーナリストの声を聞きたい方へ

◀ 長倉洋海（ながくらひろみ）

ベトナム戦取材を始めに、フォト・ジャーナリズム論を広く展開する写真家。

→70年代のベトナム・カンボジア関連では、「一ノ瀬泰造（いちのせたいぞう）」も有名。

・『フォト・ジャーナリストの眼』 岩波書店 1992年

「右目でファインダーを、左目でそこに映らない世界を」。エル・サルバドルや、アフガン兵への取材を通して、彼はどのようなことを考えたのか。入り込み取材は、外語生の心をくすぐるはず。【外 2F・新書 | 070.4/13】

・『私のフォト・ジャーナリズム - 戦争から人間へ』 平凡社 2010年

人に出会い、撮り、伝える。パレスチナ、エル・サルバドル、アフガニスタン、フィリピン、南アフリカ、アマゾン、コソボ、紛争地、辺境に生きる人々を撮り続け、たどり着いた写真/報道の可能性。著者の写真と一緒に、あなたもその可能性について考えさせられる一冊。【外 2F・新書 | 070.4/25】

◀ 広河隆一（ひろかわりゅういち）

パレスチナ問題、チェルノブイリ原発事故を中心に活躍する日本屈指のフォト・ジャーナリスト。雑誌『DAYS JAPAN』編集長。

・『戦争とフォト・ジャーナリズム』 岩波書店 2004

「戦争報道はなぜ被害者の側に立たなければならないのか…」そんな疑問を持った方に、最適な一冊。様々な戦場を駆けた広河の答えとは。【319.8/606/[別]】

・月刊誌『DAYS JAPAN』 デイズジャパン

「一枚の写真が世界を変えることもある。」を旗印に、刊行を続ける日本で唯一のフォト・ジャーナリズム月刊誌。社会によるメディア操作される前の知らない「真実」があります。【外：二階雑誌室／書庫集密庫】

※広河隆一が世話人を務める日本ビジュアルジャーナリスト協会（JVJA）が出版する本も必読。

『フォトジャーナリスト 13人の眼』 集英社 2005

『「戦地」に生きる人々』 集英社 2010

IV. フォト・ジャーナリズムという方法について考えたい人へ

◀ 今橋映子（2008）『フォト・リテラシー：報道写真と読む倫理』 中央公論新社

◀ 鈴木みどり編（2001）『メディア・リテラシーの現在と未来』 世界思想社

写真を中心に、その読み解き方をいかに育てていくか。世にあふれる写真を、どのように読み解くのか。その基本的な解説書には、この二冊がおすすめです。

- ＜ ソンタグ, スーザン (2003) 『他者の苦痛へのまなざし』 北条文緒訳, みすず書房
- ＜ クライマン, アーサー&クライマン, ジョーン (2011) 「苦しむ人々・衝撃的な映像—現代における苦しみの文化的流用」 『他者の苦しみへの責任 ソーシャル・サファリングを知る』 坂川雅子 [訳], みすず書房, pp. 01-31

他者の苦しみは、資本的に流用されているのだ—そのように聞くと、どのように感じるでしょうか。報道写真の現実と限界、そしてその受け手までを切る二冊。

Tips for Research and Study

[図書/論文の検索]

論文や Pathfinder に掲載されている図書等を検索するには

【図書・ジャーナル】

- ・外国学図書館各階にある検索端末を利用するか、あくす内の PC を利用して検索してください。
- ・その際は、書名や出版年、出版社、著者名、ISBN、ISSN 等を OPAC 検索に打ち込んでください。

【電子ジャーナル】

- ・電子ジャーナルの種別によって学内・学外からのアクセスが異なりますので、注意してください。
- ・多くの場合は「附属図書館 HP」→「電子ジャーナル」で検索できます。見つからない場合はメインカウンター／TA カウンターまでお問い合わせください。

[パスファインダーの凡例]

＜ 図書名はすべて以下の順に表記されています。(主に論文の参考文献に使われている書式です。) 著者名 (出版年) 『本の名前』 出版社名, 翻訳者名 (あれば)

＜ 説明の最後に、【 】で貸し出し可能な図書館と請求記号を記しました。

総図→総合図書館

生→生命科学図書館

理工→理工学図書館

外→外国学図書館

電→電子ジャーナル

Web→Web ページ

＜ 外国学図書館を中心としていますので、これ以外の場所でも貸し出し可能な場合があります。予約や取り寄せ等は、OPAC を参照するか、メインカウンター/TA デスクまでご相談ください。